

クイズ これ、な～んだ？

下の写真は、普段身の回りにあるものを「電子顕微鏡」を使って拡大した画像です。

いつもの姿とは全く違うミクロの世界、さあ、なんだかわかるかな？

1



ヒント

字を消すときに使うよ

2



ヒント

なめるとしょっぱいよ

ヒント

みんなにも
生えているよ

3



ヒント

校庭や公園にあるよ

4



クイズの答えはうら面にあるよ！

2月、彩都西小学校の自然科学クラブ生徒を対象に、電子顕微鏡を使った観察会が実施されました。参加された生徒たちも興味津々でした。



普段は見られない
不思議な形に
ワクワクしました！

何が見映っているか、
答えがわかったとき
びっくりした！

もっと他のものも
調べてみたくなり
ました！



参加した
みんなの
感想です！

第54回
彩都たんけん隊



電子顕微鏡で
ミクロの世界を
のぞこう！

凸凹たんけん隊でも電子顕微鏡を使ったイベントを3月に予定していましたが、延期になりました。時期を見て開催しますので楽しみに待っていてください。

生き物が好きになるコラム！

コラム①

春に羽化するアゲハチョウは小さい？

家の周りに飛んで来るおなじみのアゲハチョウ。実はこのチョウ、春型は小さく、夏型は大きいということをご存知ですか？その秘密は、幼虫が育つ秋の環境にあります。



昆虫の成長は、卵、幼虫、サナギと変化し、羽化して成虫になりますが、大きくなるのは幼虫の時のみ。成虫になると脱皮をしないため、いくらえさを与えてもそれ以上大きくなりません。しかし秋が深まり気温が低くなったところに生まれた幼虫は、えさが少ないため大きく成長することが難しくなります。アゲハチョウは幼虫の形では冬の寒さに耐えられないので、冬を越すためには、サナギになることが必要。だから、体が小さいままでサナギになり、春になるのを待って羽化します。そして、小柄なアゲハチョウが生まれます。

春に見ることが出来るアゲハチョウは、大きくなることよりも、小さくても成虫になることを選んでチョウなのです。

【昆虫科学教育館より】

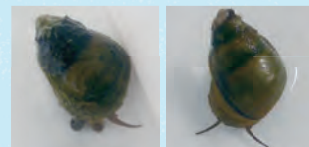
ほかにもいろいろ
説があるよ！
キミはどう思う？



コラム② タニシ

コロんとしたフォルムがかわいらしい巻貝、タニシ。日本には、数種類のタニシが生息しています。これまでに私たちが行った調査では、彩都の水辺ではヒメタニシとオオタニシを確認しています。ヒメタニシは最もよく見られるタニシで、なないろ公園のビオトープ池でも観察することができます。大人になっても3cmくらいです。オオタニシは名前のとおり、ヒメタニシと比べると大きくなり、大きい個体では7cm近くまで成長します。

タニシのオスとメスは、簡単に見分けることができます。オスのタニシは、片方の触角がクルンと丸まっています。メスのタニシは、どちらもまっすぐに伸びています。そして、タニシは卵ではなく、小さな貝を産んで増えます。繁殖期である初夏から夏にかけて水の中をのぞいてみると、小さなタニシに出会えるかもしれません。ぜひ身近な水辺を観察してみてください。



▲オスのタニシ(左)とメスのタニシ(右)

▼オオタニシ(左)とヒメタニシ(右)



【生物多様性センターより】